



アンダー・コンストラクション

古市保子

「アジア各地で小さな展覧会が同時期に開催され、それを宇宙から眺めたらひとつの大きな展覧会に見えるのではないか」という、少々ロマンチックな想像から発想されたプロジェクト「アンダー・コンストラクション」は、3年かけて実施されたプロセス重視の美術交流プログラムである。3回のワーキングセミナー、現地調査、ローカル展、総合展というプロジェクトの構造は、2000年当時、どこにもない美術交流の形態でありまさに実験であった。さらに誰もが最初からプロジェクトの最終形をイメージできたわけではなく完成形はプロセスの中から生まれてきた。そういう意味でもアンダー・コンストラクションであった。

共通の大テーマ「アジアとは何か？」を設定し、協働することにより「我々」という連帯の中からネットワークが形成され、お題目ではなく継続的な実態として内実を持つ「アジア」という協働空間を創造することになった。関わったキュレーターや作家たちは現在アジアを代表するキュレーターや作家として第一線で活躍している。また副産物として、アジアのアートのスペースのガイドブック『オルタナティブス』を生み出した。結果としてキュレーターの人材育成プログラムの典型的な成功例として、その後のアジアセンターの育成プログラムの規範となり、2014年設立の新しいアジアセンターのCondition Report事業などにも適用されている。



「アンダー・コンストラクション：アジア美術の新世代」会場風景、国際交流基金フォーラム、2002年
写真：木奥恵三



「アンダー・コンストラクション：アジア美術の新世代」会場風景、東京オペラシティアートギャラリー、2002年
写真：木奥恵三



「アンダー・コンストラクション」東京展ポスター、2002年
 デザイン：寺井恵司



「アンダー・コンストラクション」第一回ミーティング参加メンバー、国際交流基金、2000年

関連リンク

- 国際交流基金アジアセンター「Condition Report」
<https://jfac.jp/culture/projects/condition-report>
- 国際交流基金アジア美術アーカイブ「アンダー・コンストラクション」
https://www.jpf.go.jp/j/publish/asia_exhibition_history/28_02_underconstruction.html#new